

# 地方都市視察報告書

文教子ども家庭委員会

1 実施日 平成27年10月21日(水)

2 視察地 秋田県大仙市

## 【市の概要】

(1) 面積 866.77km<sup>2</sup>

(2) 人口・世帯数

(平成27年2月末現在)

○人口 86,433人

○世帯数 31,163世帯

(3) 大仙市は、平成17年3月22日に、大曲市と周辺7町村が合併して誕生した。秋田県の内陸南部に位置し、古くから交通の要衝として発展し、現在も秋田新幹線などが整備され、交通の拠点となっている。また、同市は、秋田県を代表するブランド米「あきたこまち」の一大生産地であり、毎年開催される「大曲の花火」大会は全国的にも有名で、大会当日には全国から多くの見物客が訪れる。

平成27年5月現在、市立小学校は、21校(児童数3,704人)、市立中学校は11校(生徒数1,967人)であり、小学校は、ほとんどが1学年1学級である。全国学力・学習状況調査において、近年、秋田県は全国第1位の成績を続けているが、その中でも、大仙市は、小・中学校ともに教科に関する調査及び生活習慣・学習環境に関する調査のいずれの結果も、国や秋田県の平均を上回っている。

3 視察項目・内容

小・中学校における学力向上の取組みについて

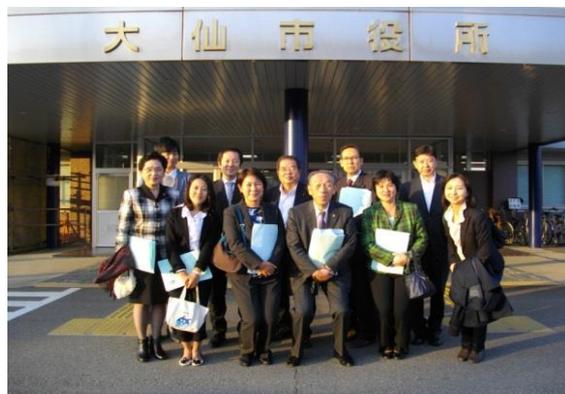
4 視察参加者

## 【委員】

あざみ民栄委員長	宮坂俊文副委員長	三沢ひで子委員
池田だいすけ委員	大門さちえ委員	鈴木ひろみ委員
えのき秀隆委員	赤羽つや子委員	伊藤陽平委員
田中のりひで委員		

## 【随員】

議事事務局次長	大野哲男	議事係	臼井友広
---------	------	-----	------



## 5 視察結果・所感

大仙市の優れた学力向上の取り組みは大変参考になった。そのいくつかを紹介する。

- (1) 教育委員会の中にシンクタンク機能を持つ「教育研究所」を設置し、そのもとで校長や現場の教員を含む「学力向上委員会」が国・県学力状況調査の詳細な分析、課題解決策の提案等を行っている。学力状況調査については、かつて市独自の調査を行っていたが、県が小学校4年生～中学校3年生まで経年で行うことから現在市では行っていない。新宿区では今後、国・東京都に加え、経年で状況をつかむための区独自調査を行うことから、大仙市の取り組みは大いに参考になると感じた。
- (2) 中学生海外派遣事業、キャリア教育、こころのプロジェクト「夢の教室」等の事業を通じて、児童・生徒は一流にふれ、志を持つことで自尊意識を高め、学習のベースがつくられていく。
- (3) 大仙市で元々行われている学習習慣、生活習慣が学力向上のベースをつくっていることがわかった。数十年前から行われている「一人勉強ノート」は、宿題とは別に自分で学習計画を立て、毎日継続し、教師がコメント、親も見守るという学習習慣であり、児童・生徒が自ら考え学ぶ習慣が付き、学校と家庭の連携を深める大変優れた取り組みである。

また、現在全国的に「早寝・早起き・朝ごはん」が「目標」として謳われているが、大仙市は「現状」が「早寝・早起き・朝ごはん」になっているとのことである。

- (4) 秋田県が全国に先がけて学級編成基準を30人程度としたこと、また、小学校21校、中学校11校はほとんど単学級の小規模校であり、児童生徒一人一人に目が行き届く教育が行われていることがわかった。

その他、様々な取り組みを行っているが、高校進学以降に課題があるというお話もあった。しかし、いずれにしても9年間の義務教育期間は市教育委員会が責任を持って子どもを育てるという姿勢を強く感じた視察であった。

## 6 主な質疑項目

- (1) 子どもが自ら考える力を伸ばす教育について
- (2) 子どもの向上心・探究心を引き出すことに重点を置いた教育方法について
- (3) 少人数学習推進事業を他県に先駆けて行った効果について
- (4) 教育研究所の役割等について
- (5) 学力向上委員会の実際の運営と課題等について
- (6) 「一人勉強ノート」の取組みと効果について
- (7) 学習状況調査の結果が良好な要因について

## 7 その他

【共同視察者】教育委員会事務局教育調整課長 木城正雄